

令和5年度

# 事業報告書

自 令和 5年 4月 1日

至 令和 6年 3月31日

社会福祉法人 岡谷市社会福祉協議会

# 目 次

I.	基本理念・基本目標・総体的な取り組み	1
II.	地域福祉事業の執行状況	2～
III.	介護保険事業・障害福祉サービス事業実績報告	24～
IV.	法人経営事業実績報告	29～
V.	岡谷市社会福祉協議会事業推進組織・役職員体制	32
VI.	主たる事業・会議等の開催	32～

# I. 基本理念・基本目標・総体的な取り組み

## 基本理念

みんなが結びつき 支えあいが重なる 共生のまちをめざして

## 基本目標

“つながる⇔つなげる⇔ひろげる⇔まもる”をキーワードに、基本理念の実現をめざして、以下の4つの基本目標を掲げ、事業を推進します。

## 総体的な取り組みについて

令和4年度にスタートした第4次岡谷市社会福祉協議会地域福祉活動計画の実施2年目として、引き続き岡谷市の特性である21の区や地区社協を中心とした地域コミュニティに着目し、今あるつながりや活動を再確認し、将来に繋げていくことを目的として、計画の柱でもある「お宝探し講座」を10地区で開催し、おかやスタイルの地域づくりを推進してきた。

令和6年度から開始される重層的支援体制整備事業に向けて、岡谷市とも協議を重ね、社会福祉士資格を有する職員を岡谷市へ派遣することで合意し、本会の担うべき役割を確認した。

その他、成年後見制度の相談に関連して、公正証書遺言の作成等の相談対応が求められるなど、終活や死後事務契約等の必要性の高まりに対応するため、身寄りなき時代を見据えた、終活支援事業を新たに開始した。

また、法人・事業所としての経営理念や方針の見直しと職員の育成や体制強化を目的とした第1次岡谷市社会福祉協議会経営計画の実施初年度として、令和4年度の策定期間中に多くの時間をかけてきた職員間での議論に本年度も継続して取り組み、職員一人ひとりが本会の果たすべき役割を常に意識し、また、自身が働きやすい職場環境の醸成に積極的に取り組んできた。

さらに、それぞれの部門が掲げる実施計画の進捗状況をチェックすることで、翌年度以降に取り組むべき課題等の洗い出しや方向性の確認を行った。

## Ⅱ. 地域福祉事業の執行状況報告

### 基本目標 1

### 支えあいがつながる 地域づくりの推進

地域のお宝探し講座を中心に各地区において日常の暮らしの中の何気ない支えあいやつながりなど、気にかけて関係の大切さや、地区や地区社協をはじめとする地域の活動の大切さについての意識啓発を行ってきた。

合わせて、市内の小中高校と連携した福祉学習会の開催やボランティア関連の講座の開催を行うなど将来に向け新たな活動の担い手に繋ぐべく以下の事業を行ってきた。

### 実施事業

#### (1) 地域のお宝探し講座（支えあいの実態調査）

4月13日	橋原地区社協	サポートセンター内容説明会	（説明）
4月18日	地区社協役員研修会		（説明）
4月27日	上浜地区社協	推進委員会	（説明）
5月12日	横川地区社協	福祉推進会議	（説明）
5月18日	岡谷地区社協	理事・評議員合同会議	（説明）
5月26日	小口地区社協	福祉推進員会議	（説明・体験）
6月7日	今井地区社協	福祉推進員研修会	（説明）
6月13日	小坂地区社協	福祉推進員会議	（第3回お宝探し講座）
6月23日	中屋地区社協	福祉推進委員会	（説明）
7月8日	横川地区社協	社協役員に向けてのデモンストレーション	
7月28日	横川地区社協		（お宝探し講座）
1月21日	新屋敷地区社協		（お宝探し講座）
3月1日	下浜地区社協		（説明）

「お宝さがし」が地域づくりの活動、地域を考えるきっかけとなるよう、地区社協の理解、協力のもと取り組みを進めてきている。小坂地区社協では、通算3回目の開催となるため趣向を変え、高齢者の三大困りごとの一つである「ごみ出し」にスポットを当ててごみ出しの場面におけるつながりや支えあいについて、小坂区の地図を広げて意見を出し合った。

地区社協の懇談会や地域での会議等に参加する際は、これまでに開催したお宝探し講座の様子をまとめたチラシ等を見てもらいながら、引き続き開催について協力をお願いしていく。

## (2) 岡谷市社会福祉大会・ふれあいボランティア祭り

### 【岡谷市社会福祉大会】

開催日 令和6年1月27日(土) 開催場所 岡谷市カノラホール(大ホール)

参加者 約400名

【式典の部】 表彰 41名 1団体 感謝状 6団体/企業  
共同募金会感謝状 10団体/企業

【講演の部】 壊されゆく子どもたち ～私たちにできること、しなければならないこと～

水谷青少年問題研究所 水谷 修 氏

新型コロナウイルス感染症5類移行後の初開催であり、夜回り先生として有名な水谷先生を迎え、久しぶりのカノラホール大ホールでの開催とした。

コロナ禍による休止期間を経て昨年度は11月、今年度は初の1月開催となるなど会場等の日程調整も年々難しくなり、開催時期が定まらないことから参加者が減少している。市民の皆様が地域福祉を意識してもらえる最大のイベントであるため、今後もPR方法やより参加しやすい形など検討をしていく。

### 【ふれあいボランティア祭り】

開催日 令和5年10月14日(土) 開催場所 諏訪湖ハイツ

午前の部 ステージ発表・ゲームコーナー・作業所出店ブース・オレンジリボンフェスなど

午後の部 朗読の会まどか“おとなのための朗読会 「榊 寿之アナウンサーとまどかの仲間たち」

講師 元NHKアナウンサー 榊 寿之 氏

午前の部では、今回はじめて他団体のイベント(オレンジリボンフェス)との共同開催とし、ハイツ内でのイベントブースを担当してもらった。天候にも恵まれ、予想を超える参加者がありイベントとしては大成功であったものの、ボランティア活動の推進や障がい者の社会参加といった本来の目的を参加者に周知するといった点では、改めて検討の余地があると考えている。

今後は本来の開催意義など基本に立ち返り、他団体や他イベントとの共催や同時開催等について検討していく。

### (3) 社協だより「ゆめ」、ホームページ、フェイスブックの活用

#### ・社協だより「ゆめ」

4月号「提供会員養成講座 受講生募集」
5月号「令和5年度岡谷市社会福祉協議会の事業」「岡谷市暮らしのサービス紹介」
6月号「地区社会福祉協議会のご紹介」「サマーチャレンジ 2023 参加者募集」
7月号「会費ご協力をお願い」「生活支援体制整備事業」
8月号「お宝探し講座活動報告」「赤い羽根共同募金団体公募配分事業公募」
9月号「今月の地域のお宝紹介」
10月号「赤い羽根共同募金ご協力をお願い」「第16回ふれあい祭り&ボランティア祭り」
11月号「岡谷市社会福祉協議会会費収納のお礼」「Share☆Café 開催のお知らせ」
12月号「“終活”～老いじたく～」
1月号「令和5年度岡谷市社会福祉大会」
2月号「赤い羽根共同募金のお礼」「令和6年能登半島地震災害義援金・ボランティア活動について」
3月号「令和5年度岡谷市社会福祉大会の報告」「ボランティアセンター活動保険のお知らせ」

#### ・ホームページ

本会でやる事業やイベントへの申し込みについて、ホームページから申し込みができるよう仕様を変更した。

岡谷市成年後見支援センターのセミナーなどの事業への申し込みや、ボランティアの登録更新作業をホームページで行っている。特に、サマーチャレンジ2023は、85%の参加者がWEB申し込みを選択。申込者のブッキングを防ぐとともに事務処理の負担を軽減している。

#### ・フェイスブック

フォロワー（登録者）が100名を超えた。記事をシェア（拡散）してくれる方もいて、SNSの効果がでてきている。

### (4) 社会福祉推進校事業、福祉学習会

#### ①社会福祉推進校事業

市内14校を社会福祉推進校に指定し、福祉教育推進のために助成金を交付し、各学校において独自の福祉に関する授業や活動を行っている。

6月9日 社会福祉推進校事業会議(市内小・中・高校・市教育委員会)
-----------------------------------

## ②福祉学習会

市内各学校から本会が依頼を受け、福祉に関する学習会を開催した。

### ●岡谷北部中学校

6月16日 ボランティア活動に向けた福祉に関する事前学習

6月30日 視覚障がい者の歩行介助についての学習

7月19日 高齢者疑似体験・視覚障がいと点字体験学習・手話体験学習

### ●岡谷南部中学校 1年生

10月17日 高齢者疑似体験／車いす体験

### ●岡谷東高等学校

10月20日 3年生 聴覚障がいに関する学習

10月27日 2年生 聴覚障がいに関する学習

### ●湊小学校 1～6年生対象

11月10日 5年生 高齢者ってナンダ？

11月13日 6年生 高齢者とは？認知症ってナンダ？

11月14日 3・4年生 障がいってナンダ？

11月15日 2年生 ふくしてナンダ？クイズ・エコマップ作成

11月16日 1年生 ふくしてナンダ？

### ●上の原小学校 1～6年生対象

11月20日 1年生 高齢者に昔の遊びを教えよう

4年生 視覚障がいに関する学習／アイマスク体験

5・6年生 聴覚障がいに関する学習／手話体験

11月21日 2年生 高齢者に昔の遊びを教えよう

11月22日 3年生 戦争に関して高齢者から話を聞く

### ●長地小学校 5年生

11月28日 聴覚障がいに関する学習／手話体験

12月5日 高齢者疑似体験

12月20日 車いす体験

### ●岡谷東部中学校

12月13日、15日 視覚障がいに関する学習／アイマスク体験

例年と比べて非常に多くの依頼があり、中には今まで依頼を受けたことがない学校からの依頼もあり、周知が進んできたように感じている。障がいや高齢者の疑似体験だけではマイナスイメージを抱きやすい傾向にあるため、体験の前後に児童・生徒たちに正しく理解してもらうことや、児童・生徒自身に福祉について考えてもらえるような授業となるよう工夫した。

## (5) 福祉教材の貸出

高齢者疑似体験セット	2回	計7セット
点字練習器	1回	37セット
アイマスク	1回	54セット
車いす(岡谷東高校)	1回	11台

## (6) ボランティアセンターの運営

### ・ボランティアセンター事業

登録数は団体が48団体(企業含む)、個人が21名であった。

活動を希望する方には意向を確認した上で、団体を紹介するほか、個人としてセンターに登録してもらい情報提供をする等の支援を行った。

新型コロナウイルス感染症5類への移行後は、高齢者施設からのボランティア依頼が増加し、内容は踊りや歌、楽器演奏の希望が多かった。

相談件数 30件	マッチング 3件	新規ボランティア登録 4件
----------	----------	---------------

## 各種講座等の開催

### ・朗読講座

岡谷市朗読の会まどかに講師を依頼し、5月24日から合計で5回の講座を開催、6名が受講した。修了した方の中には声の広報事業を担当してもらえるような方もいるため、声かけを続けていく。

### ・出前講座

7月12日	川岸公民館	いちい学級	ポッチャ
7月20日	カルチャーセンター	いちい学級	ポッチャ
9月25日	子ども・若者STEPハウス		手話講座
10月2日	子ども・若者STEPハウス		手話講座
12月7日	子ども・若者STEPハウス		手話講座
1月19日	JA信州諏訪	長地営業所	ポッチャ
2月19日	子ども・若者STEPハウス		手話講座

地域の団体や、行政からの要請を受け、社協職員が出前講座を行った。

手話講座では、聴覚障がいのある当事者にも参加してもらえるように日程等を調整した。

上記のほか、生きがいデイサービスや高齢者クラブでもポッチャの出前講座の依頼が続いている。

## ・災害ボランティア活動パック

令和6年能登半島地震における被災地支援の一環として、市内外からボランティアを募集し、3月12日～3月14日に石川県能登町で災害救援ボランティア活動を行った。

ボランティア活動者数 4名（男性1名・女性3名）同行職員2名 計6名

## 基本目標 2

## 支援を つなげる 体制づくりの推進

日常の様々な困りごと、生活課題に対して、気軽に相談できる窓口として福祉総合相談事業（心配ごと相談）をメインに、断らない相談を目指し相談体制の強化と職員のスキル向上に努めてきた。

また、生活支援体制整備事業の推進や重層的支援体制整備事業の開始に向けて、包括支援センターの保健師や行政の担当課などとの連携・情報共有についても検討するなど、行政や専門職との連携強化を意識しながら事業を行ってきた。

## 実施事業

### (1) 福祉総合相談（心配ごと相談）事業

開設日数 242日（4月1日～3月31日）

延べ相談件数 221件（権利擁護・貸付関係相談件数含まず ※別途掲載）

【相談内容・対応先等内訳】

- ・福祉総合相談 51件（他機関等紹介） ・ボランティア関係 32件 ・障がい者関係 7件
- ・育児関係 27件 ・まゆっこ関係（有償サービス） 54件 ・ふれあいいきいきサロン 13件
- ・生活支援体制整備関係 21件 ・その他（介護保険等） 16件

### (2) 結婚相談事業

開所日数 50日（臨時相談日2日含む）

相談者数 男性 30名 女性 19名 親族等 10名

令和5年度新規登録者 男性 8名 女性 5名

3月31日現在登録者数 男性 18名 女性 8名 お見合い件数 8件

9月30日（土）と2月17日（土）に岡谷市地域創生推進課が主催したイベントへ協力（登録者への呼びかけ、記念品購入等）を行った。

その他、諏訪信用金庫主催のイベントを紹介するなど他団体との連携を図り、今後も登録者へ積極的に発信を行っていく。

### (3) 生活支援体制整備事業（岡谷市受託事業）

地区社協、生きがいデイサービス、高齢者クラブ、ふれあいいいきサロン等の活動取材を行い、それぞれの活動について「地域のお宝シート」に情報をまとめた。これをもとに広報「ゆめ」で生活支援体制整備事業の周知とともに、「今月の地域のお宝紹介」として取材した活動を掲載し、市民にも広く関心を持ってもらえるよう地域活動の情報発信に取り組んだ。広報おかや3月号では生活支援体制整備事業の特集を組み、登下校時の見守りや、区のホームページを通じて情報発信なども含め、多様な地域活動の紹介を行った。また、特集の中で本事業の概要を掲載し周知を図った。

本年度より岡谷市にも生活支援コーディネーターが配置され、ケアマネ部会やサービス事業者連絡会において、専門職向けに本事業の説明や暮らしのサービス紹介の案内、生きがいデイサービスやボランティアについて周知する機会を持つことができた。

5月2日	トモズカフェ訪問
5月2日	民児協地区会長会にて 暮らしのサービス紹介案内
5月18日	重層的支援体制整備事業実施市町村担当者会議
6月7日	川岸地区民生児童委員学習会
8月3日	東堀区民生委員会議
8月8日	ケアマネ部会
8月25日	長地四地区福祉懇談会
8月29日	地域福祉ネットワーク会議
9月12日	NPO 法人全国コミュニティワーカーセンター2名と夕日山お元気かい訪問
9月20日	新屋敷区 認知症学習会
9月22日	地区社協懇談会
9月26日	サービス事業者連絡会
10月20日	信州で暮らしていこうフォーラム
10月2日	地域福祉ネットワーク会議打ち合わせ
11月6日	地区社協視察研修（駒ヶ根市社会福祉協議会）
11月9日	原村ねこの足サービスと小井川でかけよう支援情報交換
11月10日	正木屋訪問
11月20日	重層的支援体制整備事業 研修
11月22日	チームオレンジコーディネーター研修
1月27日	岡谷市社会福祉大会
3月25日	広報おかや（生活支援体制整備特集） 発行

#### (4) 生活困窮者等支援事業

##### ・生活福祉資金貸付事業（長野県社協受託事業）

生活福祉資金貸付相談 42 件
-----------------

貸付希望者からの相談は、引き続き多い状況だが、多重債務の状態や、要件に該当しないため借入に至らなかったケースが多かった。借入要件に該当しない場合には、まいさぼ岡谷市や弁護士等の専門職へ繋いでいる。

##### ・特例貸付相談支援体制強化事業

特例貸付に関する相談 29 件
-----------------

新型コロナウイルス特例貸付については、令和5年1月から償還が始まり県社協やまいさぼ岡谷市と連携しながら債務者の対応にあたっている。約500件ある貸付件数の中には、生活状況が改善せず償還に至らないものもあるため、償還に向けたフォローアップを今後も継続して行っていく。

##### ・助け合い資金貸付事業

貸付相談	51 件				
貸付件数・貸付額	6 件	112,000 円	償還件数・償還額	9 名 28 件	115,000 円

##### ・フードバンク

受け入れ 件数 40 件	（米、缶詰、お茶、お菓子、レトルト食品）		
払い出し 件数 105 件	（米、缶詰、お茶、お菓子、レトルト食品等）		実人員 39 名

払い出し件数や利用者数が増えてきている。フードバンクの認知が進むとともに生活に困っている方が多くいることがうかがえる。

提供いただいたお米などは、フードバンク信州や市内事業所へ提供した。

繰り返し利用する方が多くあり、フードバンクだけでなく他の支援へ繋いでいく。

##### ・日用生活品緊急支援（長野県社協事業）

日用品セットの配布事業、食料品支給と併用して19件の利用があった。

##### ・生理の貧困事業

令和3年度に市で実施した事業を引き継ぎ、生理用品の寄付の受付、相談者等への配布（昼用・夜用で1セット）を行った。

寄付	72 袋	在庫数	107 袋
配布数	21 セット（貸付・生活困窮相談者へ）		10 セット（社会福祉課へ）

## (5) 地域サポートセンター事業

8月29日岡谷市が主催する地域福祉ネットワーク会議に参加。事前アンケートをもとに、高齢者、子ども、地域づくり、防災等についての各区のサポートセンターの取り組み状況や課題等についてグループワークに取り組んだ。防災についての関心が高く、支え合いマップや高齢者の安否確認、高齢者施設の災害時の対応など多くの意見が出された。

それを受けて12月21日には主に防災に関する内容で2回目の地域福祉ネットワーク会議に参加した。

## (6) 地区社協活動への支援・連携

地区社協基盤強化助成金	21 地区	2,310,000 円
福祉推進員助成金	327 名	327,000 円
地域福祉活動振興補助金		3,028,780 円
4月18日 地区社協役員研修会		
6月19日 地区社協会長会総会		
7月7日 地区社協懇親会		
6月22日 下6カ地区社協役員研修会 「地区社協と子育て支援」		
9月22日 地区社協会長会懇談会		
11月6日 駒ヶ根市社会福祉協議会・地区社協視察研修		
2月27日 市長・地区社協会長会懇談会		

4年ぶりとなる視察研修を県内で実施。駒ヶ根市社会福祉協議会と地区社協の取り組みについて学ぶとともに、グループに分かれ地区社協会長同士で現在の活動状況や課題について情報交換を行った。2月には市長・地区社協会長会懇談会も開催し、情報共有や意見交換をする機会となった。

## (7) 子どもの居場所・子ども食堂への支援

関係する研修会などに積極的に参加し、情報の共有を行い、支援内容などについて検討した。

8月8日 「子ども食堂セミナー」参加
9月25日 「地域で支え合う仕組みをつくるには～コミュニティフリッジの取り組み～」参加
9月から2月 「子ども応援ボックス」の周知や活用
※子ども応援ボックス 諏訪圏域子ども応援プラットフォームが行う子ども世帯が対象の食料・物資支援事業

## (8) ふれあいいきいきサロン

登録グループ数・会員数	5グループ	106名
-------------	-------	------

「夕日山お元気かい」より認知症の参加者についての相談、80回記念の会の開催についての相談を受け、それぞれ、認知症チームオレンジ研修、記念映像上映につなげた。また、「なつめの会」より「メンバーを増やしたい」との相談があり、取材、広報への掲載を行い、1名の参加希望の問い合わせがあり、なつめの会へとつないだ。登録団体からの相談に対応するほか、高齢の方の通いの場について問い合わせを受けた際は、当事者の趣味嗜好・スケジュールに合うサロンを紹介した。

今後も登録団体とコミュニケーションをとりながら、どのような支援が必要とされているのか、また、どのような支援ができるのかを考えていく。

## (9) まゆっこサポート（住民参加型在宅福祉サービス）事業

### ・家事援助

登録利用会員	22名	登録協力会員	11名
延べ利用回数	218回	延べ時間	225時間
・相談件数(総数) 47件			

自宅の掃除や片付けといった定期的な利用のほか、ケガ等の理由で生活課題を抱える一人暮らしの方に対し、ゴミ出しや買い物のサポート等一時的な利用にも対応した。ボランティアでの対応が難しい依頼については、他機関の紹介を行っている。

### ・団体保育

団体預かり 依頼件数	129件	預かった子どもの延べ人数	約380名
------------	------	--------------	-------

シンコースポーツ、こどものくに、岡谷市工業振興課、川岸女声コーラスからの託児依頼に対応した。

協力会員に気持ちよく活動を続けてもらうために、当日キャンセルの場合は依頼団体にキャンセル料金を請求し、待機、準備していた協力会員に支払いをしている。

育児ファミリー・サポート・センターの提供会員登録をした3名が団体保育での活動にも協力もらえることとなり、令和6年度4月からの活動に向け、団体保育の様子を見学した。

引き続き、保護者が安心して講座等に参加することができるよう利用団体と連携していくとともに、協力会員も活動しやすいよう双方の調整を図っていく。

## (10) 育児ファミリー・サポート・センター事業（岡谷市受託事業）

登録会員数	依頼会員	37名	提供会員	22名	両方会員	なし	(R.6.3.31 現在)
年間延べ利用回数		5回	託児実人数	5名	相談件数(総数)	17件	
託児理由	きょうだいの幼稚園行事参加 保護者仕事のため						

夕方から夜間にかけての預かりや長時間にわたる預かりについての問い合わせがあるが、マッチングが難しく他機関へ繋いだ。複雑な状況にある家庭に対しては、関係機関と情報の共有と、提供会員と合同で打ち合わせを重ね対応した。

提供会員養成講座に新規6名の申し込みがあり、その内3名が提供会員となった。

### 提供会員養成講座

- 第1回6月1日 子育てを取り巻く状況 子育て支援サービスについて
- 第2回6月15日 保育の心、子どもの生活へのケアと援助
- 第3回6月29日 小児看護の基礎知識、リスクマネジメント
- 第4回7月13日 心の発達と保育者のかかわり 障がいのある子の預かりについて
- 第5回7月20日 普通救命講習Ⅲ
- 第6回7月27日 子どもの遊び 子育て支援サービスを提供するために

## (11) 障害者地域生活支援事業（岡谷市受託事業）

### ・手話奉仕員養成講座

コロナ禍では、中止や延期があったが本年度は年間を通じて、講座を開講できた。

入門課程	18回2時間	受講者25名
基礎課程	23回2時間	受講者21名 修了者18人

### ・手話フォローアップ講座

手話奉仕員養成講座修了者対象	5回開催	5名参加
手話通訳者対象	5回開催	5名参加

### ・手話通訳者、要約筆記通訳者派遣事業

手話通訳者派遣	17回	23名（イベント・病院付添等）
要約筆記者派遣	3回	11名

### ・手話通訳者設置事業

相談	4回	(手話通訳者の派遣について・手話奉仕員養成講座講師連続講座について)
----	----	------------------------------------

・地域活動支援センター（ひだまりの家）管理運営事業

開所日時	週 5 日（月～金） 9:00～15:00
開所日数	245 日
定員	10 名
延べ年間通所者数	1,211 名（前年比 422 名増）
1 日平均通所者数	4.9 名（前年比 1.6 名増）
年間在籍通所者実数	20 名（男性 8 名 女性 12 名）
新規通所者数	4 名
通所希望見学者	6 名 延べ体験日数 29 日 （12 名述べ体験日数 48 日）
行事等	新型コロナウイルス感染症が 5 類となり、様々な行事が開催され、地域活動支援センターでも様々な行事を開催することができた。 文化の集い、運動会、ふれあいの集い、ふれあい祭り、3B 体操 地活ではカラオケ、スポーツ（バドミントン、卓球）デザート会、食事会忘年会、クリスマス会、新年会等

令和 5 年度は、年間通所者実数が 20 名いたが、退所利用者が 4 名（体調不良や入院で 1 年間利用がなく、退所となった利用者 3 名、再婚で転居となり退所となった利用者 1 名）おり、その他、利用中止となっている利用者が 3 名（当センターでは対応が難しくなった利用者 1 名、体調不良で入院となっている利用者 1 名、本人の希望で利用が中止となっている利用者 1 名）いた。年間を通して利用できた方は 13 名である。

新型コロナウイルス感染症が 5 類となり、様々な行事が開催されるようになり、当センターでも利用者の希望に沿った行事が開催できた。様々な行事を楽しみに来所する利用者が多くなったことで、1 日平均利用者が前年度より 1.6 名増加した。特にカラオケは人気のある行事で、利用者の希望により月 1 回の開催であったが、8 月より月 2 回の開催とした。

その他、えいぶるのキッチンとフリースペースを活用し、調理をして食事会やデザート会を行った。家でも作ってみるなど日常生活の中に活かされた。12 月よりスワンドームでのスポーツ会を月 1 回開催した。健康な身体作り、ストレス発散、楽しみとなっている。様々な行事を通し、利用者の家族、ボランティア、社協職員、来館者との交流の場となっており、お互いに楽しい時間となっている。

利用人数の増加に伴い現在の部屋だけでは狭いため、他の部屋やえいぶるのフリースペースを借りて過ごす事が多かった。

利用者は精神障がい者、知的障がい者が主で安定しない利用者が多く、体調を崩しやすく不安になることが多いため、個別相談、電話での相談支援を随時行った。

見学、体験者が令和 5 年 8 月から令和 6 年 2 月まで一人もいなかったが、3 月からは見学者や体験者が増えてきたため、今後も多くの方に利用してもらえよう環境を整えていく必要がある。

## (12) 車いす移送車レンタカー事業

貸出件数	56件
------	-----

前年度と比べ貸出件数は10件ほど増加した。通院目的での利用が多いものの、行楽や連休中の施設から自宅への帰宅等での利用も一定数あり、本事業の掲げる「生活圏の拡大」につながったように思う。

新規利用の方も増えており、本事業を知ったきっかけは市役所、病院、施設、広報、友人など様々で事業所等も含め広く周知され始めているように見受けられる。

## (13) 車いす貸出事業

貸出件数	34件
------	-----

前年度と比べ貸出件数は10件ほど増加した。利用の理由としては怪我や病気のためというものが多く、旅行、転院、法事などの短期的な利用も少なからずあった。市役所、施設等を通じて本事業を知る方も多く、今後も事業の周知に向け広く情報発信を行っていく。

## (14) Share★Café 事業（家庭介護者交流・相談事業）

平成29年度に終了した家庭介護者の集い事業に代わり、在宅で介護する家族支援者が介護者同士の意見交換や交流のほか、介護に関する悩み事や不安を気軽に相談できる場をつくり、心身のリフレッシュ及び負担の軽減を図ることを目的として今年度より新たに立ち上げた事業。参加者アンケートではおおむね好評で、次回開催を望む声も多数あった。一方で午後から参加された方からはグループができ上がったところには入りづらいと意見があったため、開催方法について再検討の必要がある。

開催日	11月20日	参加人数	8名
-----	--------	------	----

### 基本目標 3

### 参加・協働を ひろげる 仕組みづくりの推進

お宝探し講座などを通して、生きがいデイサービスや高齢者クラブ、ボランティア活動、広くは趣味の集まりなどを社会や地域への参加のきっかけと捉え、その活動の大切さや意義を広める活動を進めてきた。

障がい者や子どもたちに対しても社会や地域とのつながりを意識した事業を展開してきた。

また、それぞれの活動や事業が相互理解を深め、連携・協力しながら継続していけるよう支援を行ってきた。

## 実施事業

### (1) ボランティア体験事業（サマーチャレンジ）

受入れ協力施設	27 施設	高齢者施設 (7)	障がい者施設 (3)	保育園 (14)
		公共施設 (3)	社協事業	
参加申し込み者	93 名	中学生 (74)	高校生 (15)	大学、専門学校生 (1)
		一般 (3)		

今年度より WEB 申し込みを追加し、新たにホームページ上での予約状況の公開を行った。参加者の 8 割以上は WEB から申し込みをしており、職員・参加者にも負担の少ない方法になった。

参加者の声としては「楽しかった」というものが多かったが、予想外の業務の幅広さや、幼児との会話をする難しさ、あるいは高齢者と話す際の話題選びなどボランティア体験を通して学べたことも多かったように見受けられた。

受け入れ先施設からの参加者への評価もおおむねよく、振り返りシートでは「(利用者や園児と)積極的にかかわっていた」「掃除や外作業などの目立たない仕事もしっかりできていた」などのコメントが多数見られた。

### (2) 生きがいデイサービス事業（岡谷市受託事業）

(67グループ / 547名 利用登録)

新型コロナウイルス感染症 5 類への移行を境に 4 時間活動(昼食つき)を再開することとした。

しかし、従来の 4 時間活動よりコロナ禍で実施していた 2 時間活動がグループに合っていたという声も聞かれ、今年度よりグループごとに活動時間を 2 時間・4 時間のどちらかを選択できるようにした。現在、2 時間活動 17 グループ、4 時間活動 50 グループとなっている。今年度はコロナウイルスによる休止もなく、年間 1565 回の開催ができ、延べ 8988 名の参加があった。年間で 60 名超の新規申請があり、多くの方に参加いただいている。

物価高騰を受け市内業者のほとんどが弁当を 360 円から 400 円へ値上げされたほか、貸し切りバスの料金見直しに伴うバスハイクの移動範囲の縮小など、社会情勢の変化を受けて事業にも変化が出てきており、今後も事業の見直しや再検討が必要である。

地区	利用者人数	開催場所
今井	26 名	今井区公会所・今井区民センター
間下	43 名	間下区民センター
岡谷	24 名	岡谷区公会所
下浜	6 名	下浜区民センター
小尾口	6 名	小尾口区公民館
上浜	10 名	上浜公民館

新屋敷	12名	新屋敷会館
小口	26名	小口区民センター
小井川	88名	小井川区民会館・赤羽事業所
西堀	141名	西堀区公会所
小坂	7名	小坂公民館
花岡	9名	花岡区民センター
三沢	15名	三沢区コミュニティ施設
新倉	29名	新倉区公会所・夏明公会所
駒沢	14名	駒沢公民館・荻山会館
鮎沢	7名	鮎沢区公会所
橋原	9名	橋原区公会所
東堀	25名	柴宮館・権現コミュニティ
中村	29名	中村区民センター
横川	21名	横川公会堂
計	547名	

開催回数 1565回  
参加人数 延べ8988人

### (3) 各種団体事務

#### ・岡谷市高齢者クラブ連合会 (12単位クラブ/652名参加)

昨年度末に間下区と鮎沢区が連合会から退会し、クラブ数は12クラブとなり会員数は140名減少した。

新型コロナウイルス感染症の5類への移行後は、いずれの行事も人数制限を設けずに開催することができた。参加者の年齢や安全面を考慮して既存の行事内容の見直しを行ったり、より多くの会員が楽しめるように新規の行事を行った。

令和6年能登半島地震に際して、硬貨募金より義援金の寄付を行った。

5月31日	総会	開催
6月28日	手芸教室	開催
6月29日	長野県シニア連	ブロック研修会 参加
7月28日	長野県シニア連	女性指導者研修会 参加
8月9日	スマホ教室	
9月13日	体育大会(ポッチャ交流会)	開催
10月18日	マレットゴルフ大会	開催
10月31日	長野県シニアクラブ大会	参加
11月29日	カラオケ芸能大会	開催
1月24日	ボウリング大会	開催
2月17~19日	作品展	
2月17日	娯楽大会	
10~12月	信州まるごと健康チャレンジ	参加 ・ 硬貨募金

## ・おokayボランティア連絡協議会

交流会は新聞広告等を活用し、会員以外の参加者も多く、例年に劣らない数の参加者が集まった。また、他の団体が主催する行事に関して積極的に参加することができた。

ふれあい・ボランティア祭りは、ボランティアセンター登録団体と協力しながら、多くの人と交流する場を作ることができたが、OVN 役員が負担を感じており、イベントの規模や内容について検討が必要である。

- |        |  |
|--------|--|
| 4月27日  | 諏訪湖周囲環境整備  |
| 7月1日   | 研修会（岡谷市民病院主催の市民公開講座へ参加）<br>「骨密度は上がります／骨粗しょう症と骨折治療の最前線」 |
| 8月14日  | 岡谷太鼓祭り「ふれあい踊り連」へ参加                                     |
| 9月15日  | 会員交流会「ススキでバツタ作り」                                       |
| 9月16日  | 岡谷市福祉大運動会 参加   |
| 9月30日  | ふれあいの集い 参加   |
| 10月14日 | ふれあいボランティア祭り   |
| 12月2日  | 諏訪ブロックボランティア交流研究集会 参加                                  |
| 12月17日 | 交流会 ポッチャ大会   |
| 1月27日  | 岡谷市社会福祉大会 参加   |

## ・岡谷市障害者福祉推進実行委員会

新型コロナウイルス感染症の分類が5類となったこともあり、中止となっていた事業をようやく再開できた。

12月6日（水）岡谷市役所において、「岡谷市内の障がい者福祉施設に学ぶ」と題し学習会を開催した。市内の事業所に協力してもらい、現状を周知することができた。

また、ポッチャなど遊具の貸し出しが非常に喜ばれており設営も簡単にできることから、4分の1サイズのポッチャコートを新たに購入し、貸出を行っている。

### 【事業】

- ふれあい祭り(踊り連) 8月14日(月) 第54回 岡谷太鼓まつり MINAKOI わっさか 流し踊り部門
- ふれあいの集い(ぶどう狩り) 9月30日(土) 土田園
- ポッチャ体験コーナーの設置 11月20日(月)から11月30日(金) 諏訪湖ハイツ ロビー
- 障がいについて理解するための学習会 12月6日(水) 市役所9階大会議室  
「岡谷市内の障がい者福祉施設に学ぶ」
- 岡谷市障害者地域生活支援事業(岡谷市委託事業)
  - 7月12日(水) ハンデサポート 文化のつどい
  - 8月2日(水) 環境美化ボランティア活動 諏訪湖ハイツ周辺
  - 9月16日(土) 岡谷市福祉大運動会 小井川小学校
  - 12月2日(土) 障がい者ボウリング大会 スポーツ岡谷
  - 2月9日(金) 3B体操 諏訪湖ハイツ

【機材・遊具等貸出】 ポッチャ貸出 34件 49セット

## ・長野県共同募金会岡谷市共同募金委員会

6月19日 審査委員会(実績報告・目標額の設定)	6月29日 運営委員会
9月29日 説明会	10月1日から12月31日 共同募金運動
3月4日 審査委員会(令和5年度共同募金実績報告・令和6年度配分について)	

### (4) 福祉推進員活動の充実

地区社協から依頼を受け、区に訪問し福祉推進員の活動について説明を行っている。基本的な考え方となる「つながる・気づく・つなげる・ひろげる」についての説明、民生委員・児童委員と福祉推進員との連携についての説明を行い、地域におけるネットワーク強化の推進を図っている。

4月13日	橋原地区社協	サポートセンター内容説明会
4月18日	地区社協	役員研修会
4月27日	上浜地区社協	推進委員会
5月12日	横川地区社協	福祉推進会議
5月18日	岡谷地区社協	理事・評議員合同会議
5月26日	小口地区社協	福祉推進員会議
6月7日	今井地区社協	福祉推進員研修会
6月13日	小坂地区社協	福祉推進員会議
6月23日	中屋地区社協	福祉推進委員会

### (5) 諏訪ブロック社協事業（当番社協：原村社会福祉協議会）

ボランティア担当者会議では、サマーチャレンジについて各市町村の様子や工夫した点等を共有したり、地域で活躍するボランティア団体や個人ボランティアの情報交換を行った。

12月2日に行われた長野県社会福祉協議会主催の「まちづくり・ボランティアフォーラム」と合同開催の諏訪ブロック社協「ボランティア交流研究集会」において、ポッチャ大会を行った。約70名の方に参加してもらい、ゲームを通して市町村を越えた交流が出来た。

5月9日	第1回事務局長・次長会議		
5月30日	9月12日	1月12日	ボランティア担当者会議
7月13日	総会		
9月11日	第2回事務局長・次長会議		

## 基本目標 4

## 暮らしの安全・安心を まもる 環境づくりの推進

様々な相談に対し、意向や事情をよく踏まえたうえで、「成年後見制度」の利用を進めるなど、関係機関との連絡調整とネットワーク構築等を行う中で、その人の権利を守り、その人らしく生活が送れるよう支援を行ってきた。また、行政や専門職との連携強化を図るとともに、専門知識を持つ職員の確保や養成に力を入れてきた。

また、自然災害や新型コロナウイルス感染症などに対しても、迅速に対応し、スムーズな事業運営が行えるよう体制づくりをすすめてきた。

### 実施事業

#### (1) 権利擁護事業の推進

##### ・日常生活自立支援事業（県社協受託事業）

相談援助件数

実利用者 70名

対象者		認知症 高齢者等	知的 障がい者等	精神 障がい者等	その他	対象外
事項						
相談援助件数		930件	633件	815件	11件	1件
内訳	問合わせ	25件	10件	7件	9件	1件
	初回相談	5件	3件	3件	2件	
	相談援助	900件	620件	805件	0件	
利用援助回数		延べ 1757回	利用料が発生する支援回数			
訪問調査回数		延べ 65回	利用料が発生しない専門員が訪問した支援回数			
ケース検討会議		延べ 170回				

##### 契約数・解約数

契 約	本年度契約件数	7名（内 生活保護 0名）	累計	326名
解 約	本年度解約件数	8名（内 生活保護 0名）	累計	256名

12月末で支援員1名が退職し、専門員5名、支援員1名の体制となっている。

職員の業務分担の見直しを図り、支援員にこれまでよりも多くの場面で業務に従事してもらうことで効率化が期待でき、専門員が専門的な相談や、より適正な事務処理に時間を割くことが可能となってきており、さらなる見直しを図っている。

相談援助の問い合わせと初回相談が、毎月2件から10件程度あるが、特に春と秋に増加する傾向にあった。少ない面談回数や関係機関等からの情報では、契約に至るまでの信頼関係づくりは難しく、必要に応じて初回面談から支援者会議や自宅訪問を重ねるが、契約までにつながるケースは1割にも満たないことから、関係機関へさらなる事業の周知と早期の相談などを呼びかけていく。

#### 【研修・説明会参加】

5月～2月	社会福祉士基礎研修Ⅱ
8月～11月	社会福祉士基礎研修Ⅰ
8月～1月	成年後見人材育成研修
10月18日	令和5年度第1回日常生活自立支援事業専門員連絡会議
11月8日	罪に問われた障がい者等支援研修会
12月4日	日常生活自立支援事業利用料及び交通費の改定についての説明会
2月27日	令和5年度権利擁護推進セミナー
3月4日	令和5年度ヤングケアラー支援をみんなで考える研修会

#### ・金銭管理・財産保全サービス事業

日常生活自立支援事業の対象外となるが、支援が必要な方に対し岡谷市社協が独自で行っている金銭管理事業である。

法人後見事業、日常生活自立支援事業と共に、1月から3月にかけて、全ケースの書類・預かり金・預かり物・支援内容のチェックを2人体制で行った。今後も定期的に確認を行い、適切な管理・支援に努める。

本年度契約件数	1件	本年度解約件数	1件	実利用者数	10名
---------	----	---------	----	-------	-----

#### ・岡谷市成年後見支援センター運営（岡谷市受託事業）

開所から5年目を迎え、令和4年3月からは、市と協働する「中核機関」の位置づけとなったが、広報・啓発活動の一定の効果もみられ、新規相談・継続相談（対応）ともに多い状況が続いている。

諏訪6市町村においては、毎月の4センター連絡会のほか、外部講師による行政職員・福祉関係者に向けた成年後見の制度概要や市町村長申立てについてのスキルアップ研修会が実施された。「受任調整会議 実績報告会」としてこれまで検討がなされてきたケースについては、調整会議後の動向や制度利用の近況等の情報共有が行われた。諏訪圏域の行政職員と4センターで今後の成年後見制度利用促進に係る関係者会議も行われ、受任調整会議の仕組みや制度の利用促進に向け、より一層の多機関協働に向けた検討を進めることとなった。

成年後見制度に対する市民ニーズの高まりが感じられる中、中核機関として岡谷市との協働のもと、引き続き、広報・啓発を行うとともに相談支援体制の強化を図っていく。

なお、今年度から終活支援事業として、外部講師による「成年後見制度」に関する講座や相談会のほか、「エンディングノート」と「家族信託」をテーマにしたセミナーを開催した。

また、奇数月には、市役所内の会議室を1日借りての「成年後見制度特設相談会」を設け、16件の相談に応じるとともに、市と連携した取組みの推進を図った。

新規相談件数	85 件	継続相談件数	421 件	相談者数(実人数)	180 名
相談件数合計	506 件	内 完了件数	252 件	内 継続件数	254 名
法人後見の状況		現在の後見人等の受任件数 4件			
対象者別	認知症	100 名	相談内容	問合せ・相談	112 件
	知的障がい	269 名		申立て支援	5 件
	精神障がい	106 名		継続支援	375 件
	その他	31 名		家裁への手続き	13 件
				法人後見受任	1 件

**【相談者機関別】※件数の上位5項目（ ）は、全件数に占める割合**

- ・本人 350 件(69.2%) ・親族・家族 58 件(11.5%)
- ・行政(市内)※岡谷市包括含む 35 件(6.9%) ・ケアマネジャー(介護) 17 件(3.4%)
- ・その他(ヘルパー等) 9 件(1.8%)

※行政(市外)、後見関係の専門職、医療機関の関係者、障がい者施設の関係者等からの相談があった。

**【主な会議・打合せ・研修等】**

- ・岡谷市成年後見支援センター運営委員会 計 4 回
- ・終活講座・セミナー 計 4 回
- ・特設相談会 計 6 回
- ・諏訪地域4後見支援センター連絡会 計 11 回
- ・諏訪地域 4 後見支援センタースキルアップ研修会 計 2 回
- ・諏訪地域成年後見制度 受任調整会議 実績報告会 計 1 回
- ・諏訪地域成年後見制度利用促進に向けた体制整備に係る関係者会議 計 3 回
- ・身寄りなき時代の地域ガイドラインづくり勉強会 計 1 回
- ・身寄りなき方の支援勉強会(静岡県社協主催) 計 1 回
- ・行政書士会諏訪支部勉強会 計 1 回
- ・長野県司法書士会との相談についての意見交換会 計 1 回
- ・長野県内法人後見連携会議、センター等県域連携会議 計 1 回
- ・長野県内成年後見支援センター実務者勉強会 計 1 回

**・法人後見事業**

岡谷市社協による「法人後見」を 4 件受任しており、担当職員を中心に継続的な相談支援を行うとともに、適切かつ適正な財産管理等を行い、不正防止等に配慮している。

**(2) 災害時救援活動体制の整備**

- ・災害ボランティアセンター(災害発生時)の運営 対応なし

• 県内災害時相互応援協定等による被災地への職員派遣

10月25日～10月28日 DSAT先遣隊として、福島県いわき市災害ボランティアセンターへ派遣。被災地災害ボランティアセンターの運営支援、助言等を行った。

1月22日～1月29日・2月28日～3月4日 DSAT先遣隊として、石川県能登町災害ボランティアセンターへ派遣。被災地災害ボランティアセンターの運営支援、助言等を行った。

2月20日～2月26日・3月27日～3月31日 都道府県災害応援協定および県内災害応援協定に基づき、関東ブロック応援社協として、石川県中能登町、七尾市災害ボランティアセンターへ派遣。被災地災害ボランティアセンターの運営支援を行った。

• 市内罹災者に対する見舞事業

県社協見舞金 1件 (火災) 計 20,000 円	市社協見舞金 7件 (火災) 計 92,000 円
---------------------------	---------------------------

• 長野県あんしん創造ねっと (県社協事業)

医療受診等支援事業 4名
--------------

生活に困窮しており、福祉サービスにつがっていない方が利用している。本事業を利用したことで障害者手帳取得につがったケースもあった。

(3) おかや総合福祉センター (諏訪湖ハイツ) 管理経営事業 (指定管理事業)

開館日数	温泉施設	308 日	月平均	25.6 日
	生涯学習施設	348 日	月平均	29.0 日
開館時間	温泉施設	10 時～21 時 30 分		
	生涯学習施設	9 時～21 時 30 分		
休 館 日	温泉施設	毎週水曜日		
	生涯学習施設	毎月第 3 水曜日		
入館者数	有料入館者	温泉施設(合計)	88,502 名 (前年比 2,372 名減)	
		大 浴 場	63,799 名 (前年比 2,246 名減)	
		リハビリ施設	7,981 名 (前年比 279 名増)	
		福祉家族風呂	867 件 1,896 名 (前年比 77 件減 157 名減 )	
	生涯学習施設	延べ 6,220 団体 60,401 名 (前年比 770 団体増 9,409 名増)		
	無料入館者	大 浴 場	14,501 名 (前年比 226 名減)	
		生涯学習施設	延べ 1,210 団体 16,003 名 (前年比 228 団体増 3,771 名増)	
		足 湯	9,682 名 (1,418 名増)	
ロビー・ヘルストロン等		36,494 名 (前年比 264 名減)		

新型コロナウイルス感染症分類が5類に変更となったことにより、従来の規制を行わずマスク等の着用は個人判断とし、引き続き基本的な感染予防対策は継続してセンターの運営を行った。

研修室の利用人数制限を解除した後、利用者数および団体数は増加した。

全体の利用者は、211,082人で前年度より1.2万人増、収入は2,153万円で前年度より84万円の増となった。

令和4年9月から長野県男女共同参画センター「あいとぴあ」の改修工事が始まり、おかや総合福祉センター専用の仮設・非常用電源を設置、令和5年9月にはセンター北側に非常電源装置を設置した。

令和6年3月には、男女浴室内のパネルヒーターを改修し、利用者へのサービス提供の維持向上に努めた。

### Ⅲ. 介護保険事業・障害福祉サービス事業実績報告

#### 居宅介護支援事業所・特定相談支援事業所

##### ① 提供サービス実績

##### ア 居宅介護支援事業（要介護認定利用者に対する支援計画作成）

介護区分	延べ人数	月平均	前年比(月平均)
要介護 1・2	1,103名	92名	1名減
要介護 3・4・5	356名	30名	4名減
<b>合計</b>	<b>1,459名</b>	<b>122名</b>	<b>5名減</b>
介護支援専門員 1人あたり		29名	4名増
令和5年度新規契約者数	56名		

##### イ 介護予防支援業務（要支援認定利用者に対する支援計画作成/市受託事業）

介護区分	延べ人数	月平均	前年比(月平均)
要支援 1・2	170名	14名	1名減
介護支援専門員 1人あたり		3名	増減なし
令和5年度新規契約者数	5名		

##### ウ 特定相談支援事業（障がい者に対する障害福祉サービス等利用計画作成）

利用者数	前年比	計画作成数	前年比	継続支援回数	前年比
73名	3名増	75件	4件減	175件	76件減
令和5年度新規契約者数		8名			

##### エ 障害児相談支援事業（障がい児に対する障害福祉サービス等利用計画作成）

利用者数	前年比	計画作成数	前年比	継続支援回数	前年比
15名	3名減	16件	2名減	35件	15件減
令和5年度新規契約者数		0名			

##### ② 朝礼および定例会

毎朝のミーティングでは、全職員が当日の訪問予定、前日の訪問時状況を必ず報告することで、利用者の現状を確認しあい、情報共有を図った。それにより、担当者不在時でも対応できるようになった。

週に1回の定例会では、伝達事項、訪問時に聞き取った地域課題について洗い出しを行った。また、担当者の視野を広げることや抱え込み解消を目的に、課題等を感じているケースを出し合い、所内で話し合うようにしたことで理解が深まり助言しやすくなった。月1回の同行訪問では、独居やサービス利用が多いケース、課題のあるケースに担当者以外の職員が同行し災害時や対応困難時に事業所全体で支援を行うことができるようにした。

### ③ 勉強会・事例検討会

月1回、事業所全体で対応方針を決定すべきケースについて確認しあった。年1回、業務内容や手順の標準化、不備の解消を目指して業務マニュアルに沿って全ケース帳票類のチェックを実施した。

質の高いサービスを提供することを目的に、自己研鑽を目指し研修への参加や他事業所との合同事例検討会を実施した。

### ④ 地域への貢献

介護支援専門員初任者研修実習生の受け入れ  
岡谷市在宅医療介護連携推進検討委員会への参加  
諏訪広域連合介護保険審査会委員を担当  
ケアプラン点検推進業務への参加

### ⑤ 令和5年度総評

令和5年度は、職員個々の価値観を尊重しあい職員同士のコミュニケーションの機会を確保できるように注力した。それにより、職員間での利用者情報の共有がはかれるようになり事業所全体で利用者を支援する意識が生まれ、担当者の抱え込み解消や互いの研鑽の機会となった。

居宅介護支援事業所では、令和4年度末に職員の入退職があり、長年勤めあげた職員が退職。新たに2名入職し、令和5年度は6名で事業所運営を行った。

初めて男性職員が入職し、徐々に地域にも周知されており、新規ケースの依頼がきた時に男性介護支援専門員を希望されるケースにも対応できるようになった。また、介護職歴の長い職員が入職したことで積極的な意見交換が出来るようになった。

また、令和5年度より経営計画の実施が始まり、方針や目標を意識し業務に当たることができた。

相談支援事業では、新規依頼が行政や基幹センターからが多数を占めた。依頼の理由として、法人内の日常生活自立支援事業を利用している方が多く、経済管理で不利益を被らないよう制度を超えて連携の必要性を求められるケースが多かった。また、利用者が要介護状態に移行したり、利用者を支援している家族が要介護状態になり、他事業所のケアマネージャーと連携して対応するケースが複数あった。今後も利用者だけでなく家族も含めて支援していかれるように連携して情報共有する必要性を感じた。

今後は各部門の強みを生かして地域貢献できるように法人全体の連携強化に向けた仕組みづくりが必要と感じている。

対人援助職として、利用者に寄り添い親身に対応することを心がけ、事業所全体で支えることを基本に職員同士が信頼関係の下、業務を遂行できるように環境を整えていく。

# 訪問介護事業所

## ① 提供サービス実績

### ア 訪問介護事業

利用者数(要介護 1~5)		月平均	前年比	
		22名	5名減	
令和5年度新規利用者数		0名	8名減	※月平均
サービス区分	派遣回数	前年比(回数)	派遣時間	前年比(時間)
身体介護	83回	17回減	52時間	11時間減
身体・生活	181回	45回減	222時間	51時間減
生活援助	155回	9回減	152時間	4時間減
乗降介助	0回	0回減	0時間	増減なし
自費利用	8回	3回減	10時間	3時間減
<b>合計</b>	<b>427回</b>	<b>74回減</b>	<b>436時間</b>	<b>69時間減</b>

### イ 総合事業

利用者数 (事業対象者、要支援 1・2)		月平均	前年比	
		7名	2名減	
令和5年度新規利用者数		0名	増減なし	※月平均
サービス区分	派遣回数	前年比(回数)	派遣時間	前年比(時間)
サービス A	0回	0回減	0時間	0時間減
訪問型独自 I	6回	4回減	6時間	4時間減
訪問型独自 II	38回	14回減	38時間	14時間減
訪問型独自 III	10回	5回増	9時間	4時間減
<b>合計</b>	<b>54回</b>	<b>13回減</b>	<b>53時間</b>	<b>22時間減</b>

### ウ 障害福祉サービス事業

利用者数		月平均	前年比	
		39名	1名減	
令和5年度新規利用者数		1名	1名増	※月平均
総合支援給付	派遣回数	前年比(回数)	派遣時間	前年比(時間)
重度訪問介護	0回	増減なし	0時間	増減なし
身体介護	16回	14回増	19時間	2時間増
家事援助	99回	12回減	96時間	12時間減
通院介助	2回	2回減	6時間	4時間減
行動援護	4回	1回増	6時間	1時間増
同行援護	35回	増減なし	60時間	増減なし
移動支援	22回	1回増	24時間	3時間増
自費利用	0回	増減なし	0時間	増減なし
<b>合計</b>	<b>178回</b>	<b>2回増</b>	<b>211時間</b>	<b>10時間減</b>

## ② ミーティング

連絡事項、利用者情報共有を目的として（毎週月曜日）

## ③ 勉強会

介護技術、介護計画の理解、接遇等毎回テーマを設け、介護技術の向上を目的として（月1回）

## ④ 研修会への参加

介護福祉士会等主催の研修会に参加  
職員を対象に外部講師による研修を開催（R5.10 高齢者虐待対応研修）  
介護福祉士実務者研修参加 1名  
同行援護従事者養成研修参加 1名

## ⑤ 実習生の受入

長野県福祉大学校 2名

## ⑥ 社協見学会の実施

長野県福祉大学校介護福祉学科の学生を対象に開催（6月7日）

## ⑦ 令和5年度総評

利用者が自宅において、その人らしく、望む暮らしが継続できるような支援に注力した。毎週のミーティングにおいて情報共有を行い、観察と変化への早期発見ができるようになった。一方で本来の個別サービス計画に沿った支援の浸透は難しく、ミーティング等を活用した意識付けの継続が必要である。

年度の後半で常勤職員及び非常勤職員が複数名退職となったため、サービス提供量の調整（利用者の減員）を行い、年度末利用者は29名（介護12名・障害17名）となった。

大幅な利用者の減員を余儀なくされたが、支援方法の見直し・サービスの質の向上を行うための機会と捉え、職員のスキルアップとコミュニケーションを大切に、今後はより一層チームとして専門性の高いサービスが提供できるよう環境を整えていく。

なお、長野県福祉大学校を対象とした社協の見学会は好評であるため、令和6年度も継続して行っていく。

## 就労継続支援 B 型事業所「ひだまり作業所」

### ① 提供サービス実績

開所日時	週5日(月～金) 9:00～15:00
開所日数	240日 (前年度237日)
延べ年間通所者数	3,252名 (前年度4,073名)
1日平均通所者数	13.6名 (前年度17.2名)
年間在籍通所者実数	20名(内訳 男性13名 女性7名)
市町村別内訳	岡谷市18名 下諏訪町2名
令和5年度新規通所者	1名(内訳 男性1名 女性0名)
令和5年度退所者	4名(内訳 男性2名 女性2名) 施設入所 男性1名 支給決定期限切れ 男性1名 女性1名
令和5年度通所希望見学者	23名 / 延べ体験日数12日
令和5年度開催行事	スイーツの会 カラオケ会等を2ヶ月に1回程度開催した

### ② ミーティング

・連絡事項、利用者支援に関する情報共有、行事計画、作業方法、進行状況等の情報共有を図るため、毎月1回開催した。

### ③ 研修会の開催・参加

- ・嘱託医、行政職員に参加してもらい、連絡会を年4回開催した。  
作業所で起きた多様な事例(ケース)を教材として、専門医から障がいの状況を把握し最適な支援を思考するための方法を学ぶ研修であった。  
また、産業医による作業所内の巡回を実施し、利用者の現在の様子を把握してもらった。
- ・職員のスキルアップ向上のための研修会をリモート等にて開催した。  
(精神障害者研修・虐待研修：5名 県主催の研修：3名 通信教育：1名参加)

### ④ 令和5年度総評

令和5年度の延べ年間通所者数は、前年度の4,073人から3,252人へ821人と大幅に減少した。体調を崩し入院するなどの利用者が数名あったこと、合わせて新規利用者を増やすことができなかったことから大幅な減少となった。

1日平均通所者数は13.6人であり、毎日の通所者より週2～3日の通所者が多いことから前年度より減少した人数にはなっているが、利用者の安定した通所ができていた。

退所者は転居や就労継続A型へのスキルアップ等の理由で4名であった。

新規通所者1名は、週2～3日の利用から始まり、安定した通所により現在では毎日の通所も可能になっている。とはいえ、通所者の大半は精神障がい者であり、体調不調により休むこともあり不安定な精神面のケアには苦慮する場面も多々ある。

・作業状況

受注業務は、コロナ5類移行を受け、お土産品のお菓子の箱詰めが、年度の前半は受注数が増加し業務に追われる日々であったが、その後の受注も、コンスタントにあり年間を通して安定した受注量であった。

反面、工業関連のウエス切り、箱折りは景気の悪化が反映しているのか前年度の受注に対して半減であった。

自主製品に関しては、今年度初めて「干し柿」を生産販売したところ大変好評であった。高齢化が進み家庭での柿を取ることが減ってきている今、地域交流を含め令和6年度以降、食品を中心とした自主製品作りを検討していく。

利用者の安定した通所ではあったが、作業量が増加したことで職員・ボランティアで対応している状況もあり、今後どのように受注業務をこなしていくのかが大きな課題である。

## IV. 法人経営実績報告

### 第1次岡谷市社会福祉協議会経営計画の運用開始

令和4年度に策定した経営計画の運用初年度として、各担当・事業所で活動方針、推進目標や重点項目の達成に向け、日々の話し合いや意識付けを大切にし、年度の後半では計画の進捗状況や課題等をチェックし、令和6年度に向けて検討を重ねた。

本会が地域の中でどのような役割を果たすのか、自分たちの働く環境についてなど常に職員間で意見を交わすこと、組織としての認識、意識、部門間の情報共有や連携の意識の向上につながっている。

#### (1) 組織運営、人事、労務管理

・組織強化・体制の整備

期間中新入職員 2名

8月 7日付                      パートホームヘルパー      1名

12月 4日付                      事業所事務臨時職員        1名

## ・人材育成

ソーシャルワーク実習（社会福祉士）受入 180時間 3名

（佐久大学・松本大学・北アルプス福祉学院）

ソーシャルワーク実習（社会福祉士）受入 60時間 2名（佐久大学・松本大学）

ソーシャルワーク実習（社会福祉士）受入 他団体受入へ協力 1名（群馬福祉大学）

介護福祉士実習生受入 2名（長野県福祉大学校）

社協見学会の実施 8名（長野県福祉大学校）

職員向け高齢者虐待対応研修 10月25日 講師：小谷 美千穂氏（職員参加22名）

## ・多様な働き方の導入

就労継続支援B型事業所において、昨年度より引き続き社協OG職員ほか8名の協力を得ることができ、週1日～週2日／3時間～6時間での雇用契約を交わした。

また、令和4年度末で退職した正規職員のうち福祉職の経験が豊かな職員1名には、職員研修の企画立案や、職員からの相談に対し助言等を行う「職員を支える職員」として、月2日／5時間での雇用契約を交わしている。

## ・福利厚生事業

生活習慣病予防健診、インフルエンザ予防接種の実施など職員の健康管理に努めた。

職員が働きながら様々な資格取得に挑戦できるよう、費用の一部を助成するため資格取得支援制度を規程化し、業務に対するモチベーションの向上に努めた。

## （2）財務体制の強化

### ・財源の確保

#### 社協会費

6月19日 会費収納説明会 7月1日～8月31日 社協会費納入期間

**実績額 16,356,200円**

【内 訳】	一般会費	9,534件	9,516,700円
	賛助会費	3,269件	6,839,500円

## 赤い羽根共同募金

共同募金運動（運動期間10月1日～12月31日）

**実績額 14,889,080円**

### 【内 訳】

21 地区 13,266,321 円 窓口 1,573,429 円 学校 23,942 円 募金箱等 25,388 円

10月1日から12月31日で赤い羽根共同募金運動を展開した。

サマーチャレんじ2023のボランティアさんに募金箱を作成してもらい、市長室や、飲食店に設置した。

募金実績額は年々減少傾向にあり目標額を上回ることはできなかったが、市内およそ12,000世帯の市民から協力を得ることができた。

### • 効果的な運用

基金・積立金は国債、定期預金により運用している。

リスクの低い運用方法で行うことを第一に考えて検討を続けていく。

## V. 岡谷市社会福祉協議会事業推進組織・役職員体制

### (1) 役員

令和6年3月31日現在

理事会	事業執行機関	会長1名・副会長3名・常務理事1名・理事9名
監事	事業・会計監査	学識経験者1名・税理士1名
評議員会	議決機関	地域・各種団体代表等15名

### (2) 職員

事務局	事務局長兼常務理事	1名	
	岡谷市成年後見支援センター	2名	正規職員2名(内1名市出向職員)
	日常生活自立支援事業	4名	正規職員3名・臨時生活支援員1名
	地域福祉・ボランティア	6名	正規職員5名(ひだまりの家職員含む)・臨時職員1名
	生きがいづくりデイサービス	5名	正規職員1名・臨時援助員4名
	結婚相談所	1名	臨時相談員1名
事業所	事業所管理	2名	正規職員1名・臨時職員1名
	居宅介護支援事業所	6名	ケアマネージャー(正規5名・嘱託1名)
	訪問介護事業所	13名	ホームヘルパー(正規4名・パート9名)
	ひだまり作業所(B型作業所)	14名	所長(兼務)・指導員(正規1名・嘱託2名・臨時11名)
おかや総合福祉センター		10名	館長(嘱託1名)・事務員兼業務員(嘱託2名・臨時7名)
合計		64名	

## VI. 主たる事業・会議等の開催

月日	説明	月日	説明
<b>4月</b>		<b>5月</b>	
6日	生きがいデイサービス地区援助員会議	9日	諏訪ブロック社協局長・次長会議
13日	橋原地区社協サポートセンター説明会	12日	横川地区社協福祉推進会議
18日	地区社協役員研修会	17日	岡谷市成年後見制度特設相談会
25日	地区社協会長会監査会	18日	岡谷地区社協理事・評議員合同会議
26日	岡谷市成年後見支援センター運営委員会	24日	社協・共同募金委員会会計監査
27日	上浜地区社協福祉推進委員会	30日	諏訪ブロックボランティア担当者会議
		31日	岡谷市高齢者クラブ連合会総会
<b>6月</b>		<b>7月</b>	
1日	ファミサポ提供会員養成講座(全6回) 岡谷市成年後見支援センター運営委員会	6日	生きがいデイサービス地区援助員会議
2日	地区社協会長会総会	7日	地区社協会長会歓送迎会
7日	長野県福祉大社協見学会	8日	横川地区社協お宝探し事前研修
7日	社協理事会 川岸地区民協学習会 今井地区社協福祉推進員研修会	11日	県退職手当積立基金制度運営委員会 サマーチャレんじ2022 事前研修会
8日	社協理事会	13日	諏訪ブロック社協総会
9日	福祉推進校連絡会議	19日	岡谷市成年後見制度特設相談会
		16日	北部中学校福祉学習会
		28日	横川地区社協福祉推進会

<b>6月</b> 13日 小坂区福祉推進員会議(お宝探し講座) 16日 社協評議員選任・解任委員会 19日 社協会費収納事務説明会 共同募金審査委員会 21日 諏訪湖ハイツ 春季防災訓練 22日 下6ヶ区役員等研修会(花岡区) 23日 中谷地区社協福祉推進員会議 26日 社協評議員会・社協理事会 29日 障害者福祉推進実行員会総会 共同募金会運営委員会 30日 北部中学校福祉学習会	<b>7月</b>
<b>8月</b> 3日 東堀民生児童委員会議 4日 サマーチャレンジ缶バッチ体験 5日 終活講演会 14日 太鼓祭りふれあい踊り連 22日 生きがいデイサービスボランティア養成 研修 28日 社協理事会	<b>9月</b> 7日 生きがいデイサービス援助員会議 8日 生きがいデイサービスボランティア養成研修 11日 諏訪ブロック社協局長次長会議 12日 諏訪ブロックボランティア担当者会議 13日 高齢者クラブ体育大会 法人経営会議 20日 岡谷市成年後見制度特設相談会 22日 地区社協会長会懇談会 25日 生きがいデイサービスボランティア養成研修 29日 共同募金収納事務説明会 30日 ふれあいの集い
<b>10月</b> 1日 赤い羽根共同募金運動開始 5日 岡谷市成年後見支援センター運営委員会 11日 生きがいデイサービスボランティア養成 研修 14日 法人経営会議 17日 ふれあいボランティア祭り 20日 南部中学校福祉学習会 東高校福祉学習会	<b>11月</b> 6日 地区社協視察研修(駒ヶ根市) 8日 法人経営会議 10日 湊小学校福祉学習会 11日 信州ふっころフェスティバル 2022(オンライン) 15日 諏訪湖ハイツ 秋防災訓練 岡谷市成年後見制度特設相談会 20日 Share★Café 21日 上の原小学校福祉学習会 27日 県退職手当積立基金制度運営委員会
<b>12月</b> 2日 諏訪ブロックボランティア交流研究集会 6日 障がいについて学ぶ研修会 8日 諏訪ブロック社協役員職員研修会 9日 終活セミナー 13日 東部中学校福祉学習会 法人経営会議 15日 ボランティア連絡協議会交流会 20日 長地小学校福祉学習会	<b>1月</b> 12日 諏訪ブロックボランティア担当者会議 17日 岡谷市成年後見支援制度特設相談会 18日 社協理事会 20日 終活セミナー 21日 新屋敷地区社協お宝探し講座 22~29日 能登半島地震 DSAT 派遣 24日 高齢者クラブボウリング大会 27日 岡谷市社会福祉大会
<b>2月</b> 7日 岡谷市成年後見支援センター運営委員会 14日 法人経営会議 17~21日 高齢者クラブ作品展 日 19日 虐待防止・身体拘束の成果委員会	<b>3月</b> 4日 共同募金委員会審査委員会 7日 県退職手当積立基金制度運営委員会 生きがいデイサービス援助員会議 12~14日 能登半島地震ボランティアバスパック 日

<b>2月</b> 20～26 日 27日 27～ 1日	能登半島地震関東ブロック派遣  地区社協会長会と市長との懇談会 能登半島地震 DSAT 派遣	<b>3月</b> 13日 16日 18日 19日 27日  27～ 31日	法人経営会議 諏訪ブロック社協局長・次長会議 社協理事会 岡谷市成年後見支援制度特設相談会 社協評議員会 ボランティア連絡協議会総会 能登半島地震関東ブロック派遣
---	---	--	---

**【その他定例会議／毎月開催】** ・社協正副会長会 ・民生児童委員協議会会長会 ・おかやボランティア連絡協議会定例会  
・岡谷市高齢者クラブ連合会三役会・理事会 ・職員(全体)ミーティング ・事務局ミーティング  
・諏訪地区後見支援4センター連絡会議